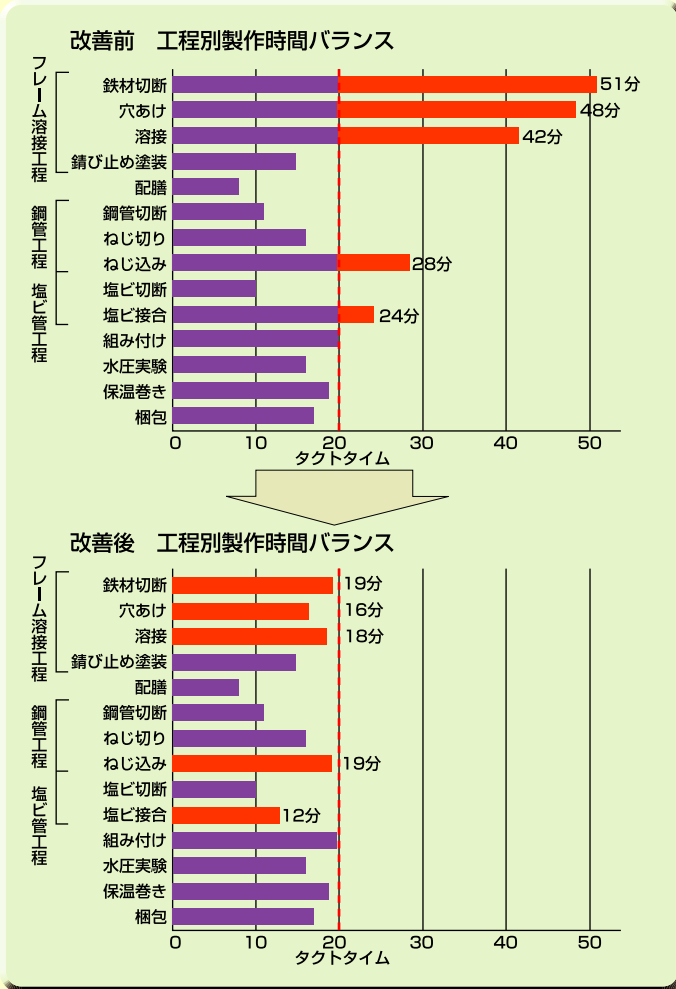
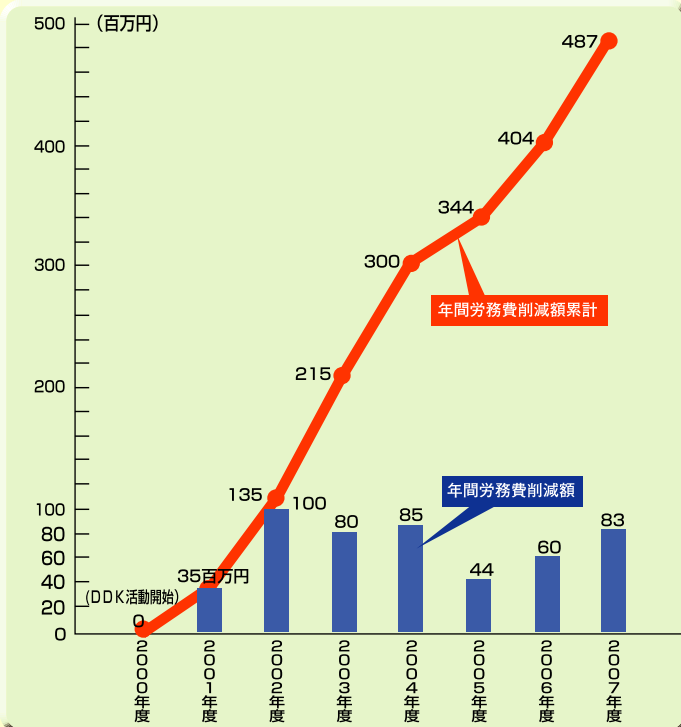


## DDK活動にて、工程別作業バランスが大きく改善



DDK活動の成果の一つがこうした作業時間短縮。本表はフレーム溶接工程の改善の一例。作業時間が均一化したことにより、後工程の作業者の「待ち時間」という無駄が改善された。

## DDKによる労務費削減額



棒グラフは「年間労務費削減額」、折れ線グラフは「年間労務費削減額累計」。DDK活動により大幅に労務費削減が実現した。

業員全員で、床磨き・機械磨きなど清潔・清掃を徹底。不要な物を捨て、必要な物を整理・整頓する。例えば油まみれの現場があったとして、4Sをしなければ、どの機械のどここの部分から油が漏れているのかがわからない。DDK活動における問題点発見のために4Sは非常に重要かつ不可欠な仕事である。

「4Sを実行するのが大変です。この段階では、改善活動をしているわけではないので効果は見えないですから、DDK活動開始当初は、本当にこんなことをして効果があるのだろうか」とみんな疑問

に思いながら、やっていました。その先にある効果を信じてがんばってもらいましょうかありません」と話すのは同社取締役総務営業部長の柴田敬一さん。2000年にDDK活動を開始した同社だが、導入から2〜3年は、従業員は疑心暗鬼のまま活動していたようだ。

4Sの過程で、不要な物を捨て、残った物に「必要な物」の置き場を決める。そして、その状態を維持するために表示を行う。大きな物は白線で囲み表示板を置き、工具類など小さな物は、棚に工具名などを表示し収納する。こうすること

で「探す手間」という無駄な作業がなくなるのだ。

### 現場の課長権限で改善策を実行

4Sの次に行うのは、仕事の分別と整理である。「熟練者あるいは必要な資格保持者しかできない作業もあり、DDKができる作業、できない作業を分ける必要があります」との話をうかがった。柴田さんによると、作業自体の細分化を行い、DDKできる作業工程を洗い出す。